

Title	古版経済書解題 一千八百〇八年版シャル・フーリエ著 四運動の理論 其他
Sub Title	
Author	高橋, 誠一郎
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1938
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.32, No.8 (1938. 8) ,p.1097(87)- 1131(121)
JaLC DOI	10.14991/001.19380801-0087
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19380801-0087

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

附記 本論文においては、社會的思想的統制にも及ぶ筈であつたけれども、紙数が、こゝまでも、多大に上つてゐる關係上、それは後日を期することとした。たゞ経済統制の比すべき思想統制の現實的法的政策は、いまだ樹立されてゐないといつてよいだらう。

(一九三八・七・三〇稿了)

古版經濟書解題

一千八百〇八年版シャル・フリーエ著『四運動の理論』其の他

高橋誠一郎

佛蘭西の空想的社會主義者シャル・フリーエ (François Marie Charles Fourier) は、一千七百七十二年四月七日、ヅウ縣の首都ベゾンソンに生れた。彼れの父は同市の可なりに繁昌した呉服商であつた。彼れは歳僅かに十一の時、佛語及び羅典語の優等賞を獲得し、又、地理學の研究に耽つて、其の小遣錢の大部分を地圖及び地球儀に費した。彼れは幼少の頃より花を愛し音樂を好む敏感優情の子であつて、其の倫理感も亦、著しく洗練せられて居つた。或る朝、貧しい寒が彼れの家を訪れて、幼いシャルは病氣かと尋ねた。病氣ではないが、旅行中であると云はれて、彼れは泣き出した。シャル少年は學校に赴くの途次、毎日竊かに其の辨當の一半を此の貧しい人に與へて居つたのである。

彼れは商家に人と爲り、商業の實際を見習つたのであるが、而も之れに伴へる表裏反覆を憎惡した。五歳の頃、彼れは父の店の商品の原價を顧客に告げたが爲めに嚴しく叱責せられた。彼れ曰く、「私は教理問答に於いて、又學

校に於いて、人は斷じて虚言を吐いてはならぬことを教へられた、而して後、私は早く、あの嘘をつく立派な業務、即ち販賣の技術に馴らさるゝやうに商店に入らしめられた」と。彼れは商人たることを欲しなかつたのであるが、而も彼れの家族關係は彼れをして其の志望通りに工兵隊に入ることを得せしめなかつた。彼れは其の家郷を去つてルーオンに赴くの途次、巴里に於いて偶々フェヴリエ (Fevrier) 食堂に於いて、彼れと一緒に食事を取つて居つた一旅客が一個の林檎に對して十四スーを支拂つたのを見た。彼れは恰も、同一種の林檎、若しくは是れよりも更に良種のものですら一個半リアル、即ち十四スーで一個以上を購ふことの出来る地方から來たのである。彼れは同一の温度を有する諸地方間に於ける斯くの如き價格の相違に痛く動かされて、産業機構に於いて極端に不正なるものが存在しなければならぬと云ふ疑念を抱くに至り、斯くて又、四年の後に、彼れをして産業集團系列説、從つて又、ニュートンの脱漏した普遍的運動法則を發見するに至らしめた探求を開始したのである。彼れ曰く、「余は其の時以來、四個の林檎、——二個は、是れ等のものが惹き起した禍害によつて、二個は是れ等のものが科學に致した功績によつて名高い四個の林檎を數へることの出来るのに氣附いた、前の二個はアダムの林檎と、パリスの林檎(トロヤ戰役の因を爲せるもの)であり、後の二個はニュートンの林檎と余の林檎である。是れ等林檎のカドリルは歴史の一頁に値しなすか」と。(Manuscrits de Fourier — Librairie Palastérienne, 1851, p. 17.)

然しながら、「商業の強奪」を痛感した彼れも終に商人と爲るの運命より免るゝを得ずして、十八歳の時、里昂に本部を有する巡回註文取りと爲つた。

フリーエの父は早く一千七百八十一年に歿して、彼れに十萬法の財産を遺した。彼れは之れを外國貿易に投入したのであるが、一千七百九十三年の「恐怖時代」に於いて國民議會軍に反抗せる里昂市が、同年十月、シャリエ

(Chalier)によつて攻圍せらるゝや、其の木綿俵は防禦を造るが爲めに使用せられ、其の食料品は兵士の食料に充てられて、彼れの業務は殆んど全く破壊せられ、彼れ自身はプルシ伯 (Comte de Prey) の軍に投じて、兩度投獄せられた。彼れは幸にして斷頭臺を免れたのであるが、而も一兵卒として二個年間軍務に服さなければならなかつた。彼れは一千七百九十七年、一は軍隊組織に關し、他は敵國との通商上の協定に關する二案を佛國政府に獻じた。一千七百九十八年、病弱の故を以つて除隊を許され、翌九十九年、馬耳塞の大商館に手代として使用せらるゝことゝ爲つた。彼れは爰に復も「商業の秘密」に衝動を感じなければならなかつた。彼れの商會主等は凶荒に際し、缺乏を大ならしめ、價格を騰貴せしむるの目的を以つて餘りに久しく船艙中に貯藏せしめたが爲めに腐敗した極めて多量の米を、彼れをして人目を避けて夜陰秘かに海中に投ぜしめたのである。

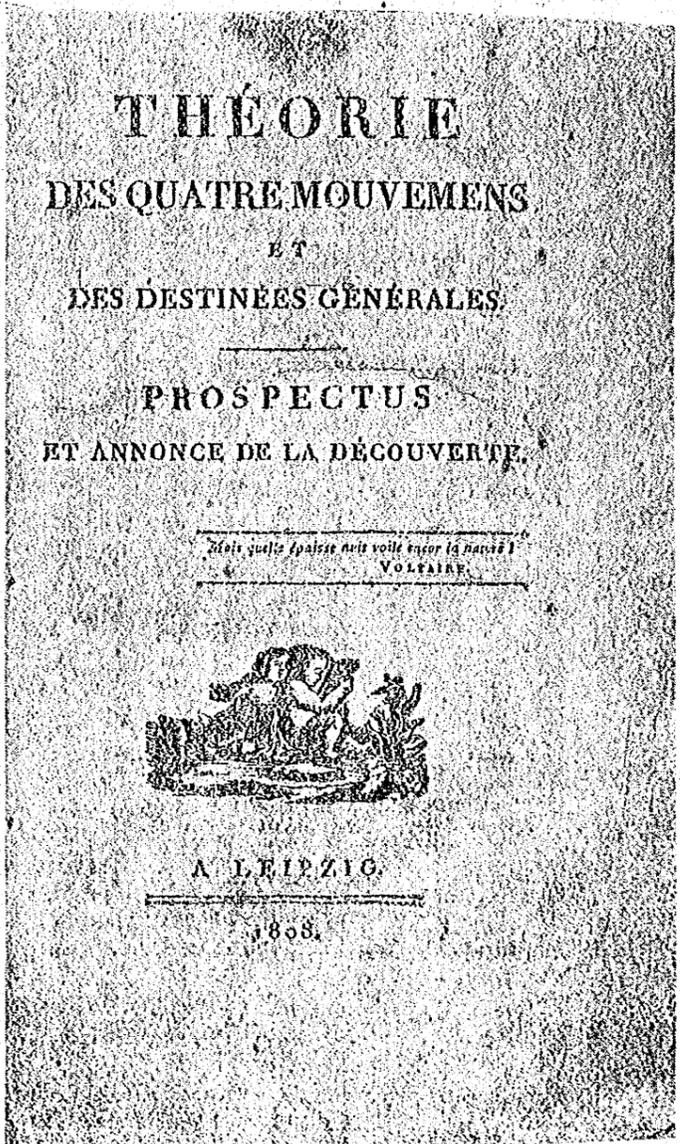
二

革命期佛蘭西の一般的動搖の唯中に在つて靜かに低劣卑賤なる業務に従事しつゝあるフリーエの心意は絶えず社會的、商業的及び政治的組織並びに進歩の問題に向はなければ止まなかつた。前述せるが如き特殊の経験よりして、彼れは「子供をして虚言を吐かしめ、大人をして飢餓に迫れる人民の必要とする食料をして空しく腐敗するに委せしむる」社會制度には根本的に不正なる或るものゝ存することを論結した。彼れは一千七百九十九年を以つて其の理論の萌芽を發見した。一千八百年、彼れは其の思想を弘布せしめんとするの念に驅られて、當局に向つて「秩序愛と政府に對する尊敬とによつて」導かる可きことを約定せられた新聞紙を創刊するの許可を求めた。而も其の要求は容れられずして、フリーエは現存の新聞紙に依頼しなければならなかつた。彼れは暇を盗んで「時報」(Bulletin)と稱する地方新聞の稍や解放せられた婦人讀者の爲めに幾多の散文及び韻文を草した。其の中には洒落氣味のもの

もあつた。臆がて、彼は更らに眞率なる努力に向つて進まんとした。彼れは一千八百〇三年、「普遍的調和」と題する『時報』紙上の二頁の論文に於いて彼の新制度の輪郭を畫いた。而して是れより五年の後、一千八百〇八年、彼れは其の主著の一たる『四運動の理論』(Théorie des Quatre Mouvements et des Destinées générales.) を出版した。此の書は彼れが得々として彼れの「發見」と稱した其の體系の「趣意書であり又、聲明書」(Prospectus et Annonce de la découverte)たるものである。本書はライプツヒで出版せられたことになつてゐるが、實は里昂で發見せられたものである。一千八百四十一年に再版を出してゐる。本稿中に第一圖として掲ぐる所のもは本書初版の扉である。

四運動とは、吾人に社會、動物的生活、有機的生活及び物質界を興へつゝある社會的、動物的、有機的及び物質的 (social, animal, organique et matériel) の其れである。本書の目的は一個の法則、即ち引力の其れが總べて是れ等のものを支配することを示すに在る。ニュートン及びライプニッツは一個の運動、即ち物質的運動 (Mouvement matériel) の法則を發見した、フリーエは此の同一なる引力の法則が四運動の總べてに普遍なることを發見した。這般の發見は、此の地球に起り得可き最も驚異的にして又、最も幸運なる出來事、即ち「社會的渾沌より普遍的調和への急激なる變移」(passage subit du chaos social à l'harmonie universelle) に備ふるものである。(Ibid., le édit., 1808, Introduction.)

彼れは誇らかに言う「余の以前に於いては、人類は狂暴に自然と戦つて幾千年を費した。余は彼の女の命令の機關たる引力を研究して、彼の女の前に頭を下げた最初の者である。彼の女は其の祠に香を供へた唯一の人間を忝なくも微笑を以つて迎へて下された。彼の女は其の財寶の總べてを余に引き渡した。此の運命の書の所有者よ、余は



(第一圖)

政治的及び道徳的暗黒を消散せしむるが爲めに來つた、而して不確定科學の敗壞の上に、余は一般的調和の理論を打ち建てた」と。(ibid., p. 268.)。而して、彼れは爰に所謂「不確定科學」なる名稱の下に、形而上學、倫理哲學、政治學及び經濟學を置く。

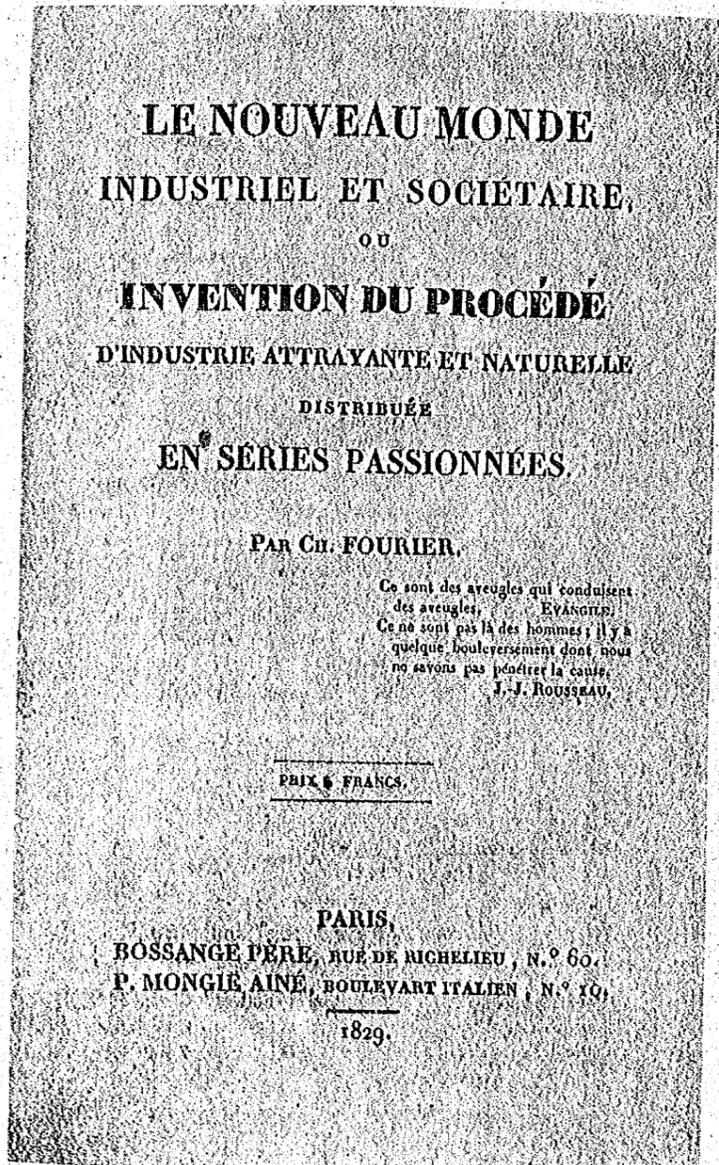
彼れは社會が急速に新制度を採用す可きことを期待し、或る有力者が之れを後援するならば、其の計畫は年内に實施せらるゝを得可きものと推測した。然しながら、不幸にして何事も起らなかつた。彼れは空しく革命の到來を待つた。此の書は不明瞭であり、混亂を極めてゐる。其の中に包含せられてゐる氣違染みた意見や、馬鹿氣た豫言は嘲笑と酷評の的と爲つた。彼れ自身も此の書を以つて不完全なるものと考へ、久しく本書を擧ぐることもなく、又、他人が之れに就いて云々するを聴くことを欲しなかつた。其の後、彼れは、本書の再版を出す可き旨を勸告せられた際、そは誤謬を有するものであつて、之れをして自己に取り満足なるものたらしむるが爲めには、之れを書き改むるの要ありと稱して肯じなかつた。(ibid., 2e ed., 1841, préface.)

三

フーリエの物質的生活は、彼れが業務に従事しつゝあつた間は改善せらるゝことがなかつた。一千八百十二年、彼れが其の母から扶助料を承け繼ぐに至る迄は、彼れの生活は常に窮乏に瀕して居つた。彼れは貧困の裡に在つて常に其の上衣にブラッシを入念にかくることを怠らず、白のネクタイをきちんと結んで居つた。彼れは一ヶ年一千フラン法乃至一千五百法の収入があつた。一千八百十四年より十五年に互れる實業界の不振は、彼れをして其の業務を拋棄するの決意を爲さしめ、終生娶ることのなかつた彼れは其の姉妹の許に赴いて之れと同居した。斯くして生じた新たなる閑暇を利用して彼れは更らに其の理論の表明に努力し、終に一千八百二十二年に至つて、彼れの最初の歸依

者の援助に依つて第二の長篇を上梓した。『家庭的農業組合論』(Le Traité de l'Association Domestique Agricole ou Attraction Industrielle.)三卷が是れである。此の書は一千八百三十八年『普遍的和合の理論』(Théorie de l'Unité Universelle.)と改題して再版せられた。

『組合論』は『四運動』中に表明せられたる理論を更らに著しく詳細に説述し、更らに實際的な細説を施せるものである。而も本書は猶ほ前著の文體及び排列の缺點を繰り返すものであつて、圖式、文字及び畫文字の無意味の結合多く、必要なくして創造せられた新語奇語は屢々其の思想を難解ならしめてゐる。其の教理を論議するが爲めに諸集會を開き、此の書を諸名士に寄贈し、新聞記者に通告するなど種々なる手段を盡して宣傳に努めたにも拘らず、本書も亦前著と等しく、殆んど何等の反響をも喚び起すことがなかつた。フーリエは再び商業に歸り、此の度は紐育の一商會の代理商として働いた。然しながら、フーリエは漸次、少數ではあるが而も堅い學派を築き上げて居つた。彼れは其の學徒を増加するが爲めに、一千八百二十六年、更らに他の著作に着手した。これが三年の後、即ち一千八百二十九年に至つて出版せられた『新産業世界』(Le Nouveau Monde Industriel et sociétaire, ou invention du procédé d'industrie attrayante et naturelle distribuée en séries passionnées.)である。出版費は彼れの比較的新しい學徒の一人によつて支出せられた。本書の主たる目的は傳道布教であつて、彼れは本書中に於いて新原理を表明することが殆んどなかつたのであるが、而も彼れの教理は爰に一層簡略明瞭に且つ順序正しく展開せらるゝことゝ爲つた。本書は一千八百四十八年に三版を發兌した。爰には初版本の扉を第二圖として掲げることゝした。次いで、彼れは一千八百三十一年『サン・シモン派及びオーエン派の陷穽及び山師醫者的大法騾』(Piéges et Charlatanisme des Sectes de Saint Simon et d'Owen)を公にした。フーリエは名聲に憧れた、而も、彼れは猶ほ



(第 二 圖)

其の學徒の小團體の追従を以つて満足しなげらなかつた。然しながら、是れ等の學徒も永く全幅の尊敬を其の師に捧ぐることを得ざるに至つた。教義に關する葛藤が生じた。フリーエは兎角獨裁的たらんとするの傾向を示し勝ちであつた。彼れの學徒は彼れが其の派の定期刊行物に登載せんことを主張せる其の最近の諸論篇が此の派の運動に有害なる影響を與へつゝあることを遺憾とした。遂に彼れ等は其の師の注意を轉向せしむるが爲めに、彼れに勸めて、更らに組合理論に關する新著を起草せしめた。一千八百三十五年から三十六年に互つて出版せられた『誤れる産業』(La Fausse Industrie morcelée, répugnante, mensongère, et l'antidote l'industrie naturelle, combinée, attrayante, véridique, etc.)二卷が是れである。本書は彼れに對して下された其の學徒の判斷の正當なるを立證するの觀あるものであつて、從來の教義に對して殆んど何物をも附加することなく、又、元來不秩序、亂雜の嫌ひある彼れの著作中に在つて其の最も甚しきものと稱せられてゐる。

一千八百三十二年から同三十三年に互つて『ファランステール』(La Réforme industrielle, ou le Phalanstère)と題して發行せられて來た此の派の機關誌は廢刊と爲り、一千八百三十六年、新たに『ファランヂ』(La Phalange, journal de la science sociale.)の發行を見ることゝ爲つた。

彼れの腦力は既に著しく衰へて居つた。彼れは一千八百三十七年十月七日、巴里に於いて歿した。彼れは常に半狂人ではなかつたかと疑はれてゐる。而も、彼れの忠實なる學徒は、熱心に彼れが理性的であつたことを主張してゐる。彼れは全然、日、月及び季節を知らなかつた。彼れは猫や花を熱愛した。彼れは軍隊が町を通ると、軍樂の響きに歩調を合せて拍子をとりながら、其の後について行つた。彼れは又、長時間兵士の教練を見て居つた。彼れは毎日正午には必ず時間を違ふことなく其の家に在つて、彼れの原理に基いた植民地の開發の爲めに進んで一百

萬法を喜捨せんとする篤志家の來訪を待つて居つた。彼れは斯くの如き資本家の出現を其の死に至る迄、十二年間辛抱強く待つて居つた。彼れは一度其の計畫に基けるファランステールが建設せられて、人々の豫期しなかつた利潤を擧ぐることを得たならば、總べての人々は、彼れ等に共通なる模倣衝動に促されて、之れと同様なるファランステールの形成を即行す可きものと考へたのである。合理主義者中の合理主義者たるフーリエは、遅々たる制度的發達過程の考慮を排除して、純粹理性によつて支配せらるゝ社會的秩序の可能性を主張したのである。

彼れの死後、其の學徒は『フーリエ理論の普及及び實現協會』(La Société pour la Propagation et pour la Réalisation de la Théorie de Fourier)を結成し、一千八百四十三年に至つて、其の派の機關誌は日刊の『平和的デモクラシー』(La Démocratie Pacifique)に代つたが、之れも一千八百五十一年十二月二日のクーデターによつて禁止せられた。彼れの學流は *École fouriériste socialiste ou phalanstérienne* と呼ばれた。此の派は「革命なき社會改良。秩序、正義及び自由の實現。産業の組織、資本、勞働及び才能の社會化」を標語としてゐる。

四

フーリエは其の社會理論と關聯して、最も粗笨にして最も不可思議なる一種の宇宙哲學を展開せしめた。彼れは我が地球を以つて恰も其の幼年期を經過せんとしつゝあるものと説く。彼れは星を以つて自己の生命を有するものと觀る。洵に星は生成死滅する生物である。月は星の屍である。我が地球も八萬年の生涯を送つて、臆がて死するものである。彼れに従へば、地球の生涯八萬年は上昇振動 (*vibration ascendante*) の四萬年、下降振動 (*vibration descendante*) の四萬年に分たれる。上昇振動は又、二形象に分たれる。第一形象は最初の十六分の一、即ち五千年たる幼年期、即ち上昇的支離滅裂の時代 (*l'enfance ou incohérence ascendante*) である。混亂、野蠻、父權、未開

の後に現れた現代の文明は、臆がて、各人が最少限の衣食と安閑と安易とを與へらる可き保證 (*garantisme*) の時代を生み、次いで幸福の微光は差し初める。第二形象は之れに次ぐ十六分の一、即ち三萬五千年たる生長期、即ち上昇的結合の時代 (*l'accroissement ou combinaison ascendante*) である。其の第一期は單純なる結合の連續の時期、幸福の黎明期であり、次ぎの七期は相續ける合成的上昇期であつて、最後は「完全に向つて進みつゝある第一の *création septigénérique*」と名附けらるゝ所のものである。此の世界は三萬五千年乃至三萬八千年にして幸福の最高頂に到達する。是れに次いで四萬年の下降期が始まる。此の四萬年は上昇期と均しき順序を逆に經過するものであつて、三萬五千年の晩年期、即ち結合的下降期 (*le déclin ou combinaison descendante*) を第三形象とし、五千年の老耄期、即ち支離滅裂的下降期 (*la caducité ou incohérence descendante*) を第四形象とする。

洵に、フーリエに従へば、一切萬物は其の存在の自然的過程に於いて、始、中、終を有する。動物、植物、礦物、惑星、恒星、太陽系統、宇宙 (*univers*)、*binivers*、*trinivers*、換言すれば、創造せられたる物は大小を問はず、總べて皆、生れてより死に至り、其の顯然たる存在の始初より終末に至る自然的生涯を有する。斯くて人類の生命も人間の生命に類似する。前述の如く、地球は恰も其の幼年期を脱却せんとしてゐる。そはフーリエの共同生活の計畫を採用するの時、漸次上昇振動の第二形象に變移す可きである。現在に至るまで、我が地球の生活は虛弱であり、小兒的であり、且つ苦難に満ちて居つた、而も、そは好運の點に於いて是れまでに描かれたあらゆるミレニアムを凌駕しつゝある幸福なる七萬年に於いて、之れに對する償ひを受く可きである。一時其の樞軸の誤れる地球は、見ることの出来る期間内に正しい軌道に乗り、北極と南極との間の引力は結合し、熱帶の燒くが如き熱風は清涼なる微風と爲る。獅子は人間の從僕と爲り、唯だ一日内に其の車を佛蘭西の一方の端から他の端まで牽く可く、又、彼

れにして海豹の背に乗ることを欲しなかつたならば、鯨は海洋を横切つて彼れの船を引くであらう。即ち獅子、鯨は頗る人馴れた「反獅子」及び「反鯨」に道を譲ることゝ爲るのである。海水は檸檬水よりも更らに快き飲料と爲り、而して、かの土星の輪環に似たる北極に於ける赫奕たる光明は雷だに冰山を溶解して、世界の此の部分をして居住し得可きものたらしむるのみならず、地球の全面に無比の芳香を瀰漫せしむ可きである。雪に覆はれてゐた廣漠たる西比利亞の野には柑橘が咲き實を結ぶ。伶俐なる化學者は玄武岩から最も美味なるパイを製造する。

フリーエは、星が他の生物と等しき感情及び衝動を有することを信ずる。而して、是れ等の感情及び衝動が他の生物と異なる點は、唯だ是れ等のものが著しく他のものに於けるよりも優秀なるに存する。造物主自らも力と完全の絶對の程度に到達せる是れ等十二の欲情を有してゐる。蓋し、是れ等の吸引力は實に人間の生命であり、而して人間は神の像を塑つて創造せられたるものなるが故である。恰も人々が家族及び團體、町及び區、州及び國を形成するが如く、遊星は彼れ等の社會、即ち太陽系統及び幾多太陽系統の集合體を形成する。是れ等のものゝ職能は順序に於いて勝るも、本性に於いては、人類の其れと同一である。生産と種族の維持が人類の義務であるが如く、創造と生殖とは諸遊星生涯の自然的事業である。諸遊星は其れ自身の種族を生産する。星は單一の星から其の南北の極を通じて自生し、他の星より兩極を通じて産生し、又は月下香が地球の南氣、天王星の北氣及び太陽の南氣(Herschell-nord, Soleil-sud)の三芳香より生ずるが如く、媒介者から産生する。而も、其の創造的産業の任務は相互に種々なる動植物の形態を供給し合ふことに存する。而して、是れ等の動植物は各天體の夫々の表面に生存し、生育する。斯くて太陽系統の諸遊星及び諸衛星は、礦物、植物及び動物界に於ける我が地球の創造に貢献した。象、獬及び金剛石は、太陽によつて創造せられた。馬、百合及び紅寶石は土星が造つた。牛、長壽花及び黃玉は木

星が造つた。犬、莖及び蛋白石は地球自らの創造せる所である。恰も人間が神と協同して自然を耕作し、改良するが如く、諸遊星は是れ等の下次の創造に於いて神と協同する。人間の創造力は科學及び機械的發明、藝術的及び工業的生産、一般的模倣及び精練に作用する。彼れの生殖力は自己の種族を再生産する。

フリーエは輪廻説を信奉するものである。吾人の靈魂は誕生に際して天堂より此の世界に降り、而して諸精靈の世界に歸るが爲めに、死と共に此の肉慾的狀態を去る。斯くの如き可視的世界より不可視的世界へ、又、不可視的世界より可視的世界への交替的變移は、此の地球上に於ける人類の存在と共に始まり、存續期間の終末まで、即ち此の地球の晩年並びに他の遊星への人類一齊の最後の移轉まで繼續す可きである。フリーエの推想する所に據れば、我が現在の國王王妃、美男美女及び恵まれたる諸階級は、此の地球又は他の地球上に於ける彼れ等の前生、即ち過去の存在の多くに於いて不具者、乞食、罪人及び難澁者であり、又、現時の我が貧民、罪人及び不具者は既に人類の過去の時代に於いて容姿美麗であり、情況に恵まれ、天賦の才能を有し、高貴なる階級に列り、然らざれば又、現時の王公貴族よりも更らに幸福であつたか、若しくは將來の時代に於いて然る可きものである。是れに由つて、彼れは、大衆が貧困と一般的艱難に悩みつゝある間に、社會に於ける一定少數の恵まれたる人々が幸福を享有しつゝある理由を明かにして、人間に對する神の仕打ちを是認せんとした。人間の靈魂は此の地球上に於けるよりも目に見えぬ世界の上に二倍の生涯を送る。或る人が此の娑婆生活に於いて五十年の天壽を有するとしたならば、彼れは此の娑婆世界に復歸するに先き立ち、天國に於いて二百年間生活す可きである。靈魂の目に見えぬ居所も目に見ゆる居所も此の地球上に存する、而も、靈魂は其の身體が大氣よりも更らに弾力性及び膨脹性に富めるエーテル的實體より構成せらるゝ靈魂的若しくは目に見えぬ生存状態に於いては、一の地球より他に移住することが出来る。人

間は此の娑婆生活に於いては、毎日八時間は睡眠安息の裡に過し、十六時間は不眠活動の裡に暮す。睡眠は死若しくは心的暗黒の一種であつて、人は這裡に過去の活動の意識及び記憶を喪ふ、不眠は意識生活であつて、這裡に人は、彼れが幾度びか眠つて其の目醒めたる生活の記憶を喪ひ又之れに劣ることなく幾度びか記憶と意識の連続を以つて其の睡眠より目醒めることを知る。此の娑婆生活は靈魂生活の活動と記憶と對比せられたる睡眠の安息である。吾人は生誕に際して此のねむたい娑婆世界に入ると共に、過去の存在の總べての記憶を喪ひ、而して死に際して娑婆的及び目に見えぬ世界の兩者に於ける前生の總べての意識と完全なる記憶とを以つて靈魂世界に蘇る。恰も、安らかに眠る者が、快く、又、機嫌よく目を醒すが如く、地球上に於いて幸福なる生活を送る者は、死に際して著しく清々しき氣分を以つて靈魂生活に蘇る。

五

フリーエは、此の地球上に於ける人類の發達及び進歩を以つて、個人の發達及び進歩と正確に同一なるものと認める。彼れは智能と人口の増進に従つて、人類の全過程を社會の三十二期若しくは變遷に分つ。斯くて後、彼れは、總べての國民が聯合組合を形成して社會的に政治的に又宗教的に結合せられたる人類の一統一體と爲る總べての國民の聯合組合を、總べての機關が一の完全なる有機體若しくは身體に合一せらるゝ子宮内に於ける人間の胎兒に比較する。這般の身體が子宮内に於いて充分に發育せしめられた時、小兒は光と自然的呼吸の世界に生れる、集合體が充分に結合せる社會状態に發達せしめられた時、人類は成熟して地球上に於ける其の自然的運命たる眞理と平和と調和の世界に誘導せられる。人類が散亂して別箇の國民に分割せられ、其の相互的欲望及び運命に關して比較的無意識と無知の狀態に生活しつゝある間は、人類は「地獄の縁」(Limbe)の狀態、即ち其の眞の運命及び自然の集合

的合一を意識することのない社會的暗黒、懦弱及び不完全の狀態に在つた。社會的生命及び存在は子宮内に於ける生命及び生誕後の生命の其れに類似せる二個の絶對に相異なる狀態に分割せられる。現在に於いては、吾人は恰も半ば發育した胎兒が子宮内に生存するが如く、又、毛蟲が蝶に變形する以前に於いて地上を這ひ歩くが如くに、暗黒の子宮、若しくは社會的地獄の縁の子宮内に生存する。斯くの如き生存狀態は(一)エデンと稱せらるゝ原始狀態(Primitive, dite Eden)。(二)野蠻若しくは不活潑狀態(Sauvagerie ou inertie)。(三)父權的若しくは小産業狀態(Patriarcat, petite industrie)。(四)未開若しくは中産業狀態(Barbarie, moyenne industrie)。(五)文明若しくは大産業狀態(Civilisation, grande industrie)。(六)保證主義的若しくは半組合狀態(Garantisme, demi-association)。(七)社會主義的若しくは單純なる組合狀態(Socialisme, associat. simple)及び(八)調和主義的若しくは合成的なる組合狀態(Harmonisme, assoc. composée)なる一般的名稱によつて呼ばるゝ進化及び發達の階段に分たれる。社會的調和にして一度び構成せられたる時、そは此の地球上に於ける人類の生涯を通じて前進的發達及び完成の二十四の階段を通過す可きである。此の地球が人類の無數の年代を通じてあらゆる地方に於いて花園若しくは地上の樂園の如くに耕作せられて後、あらゆる緯度に於いて北極から南極に互つて充滿するまでに十分に人數を増加するに至り、而して、此の地球が這般の長く繼續せる耕作と取り盡しとによつて疲弊せしめらるゝに至つた時、人類は廢頽と窮乏とに陥る可きである、是に至つて、鬭争は、諸國民が現在に於いて存するが如く、再び彼れ等を相互に分裂せしむ可く、而して敗壞若しくは下降的「地獄の縁」は數時代の間存續す可く、終に人類は肉體的及び靈魂的生活に於いて此の地球から他に移され、此處に新生涯は開始せられ、肉體的精美と靈魂的善良の更らに進んだ程度に於いて、其の階段の總べてを通じて再び生命の巡路を行進す可きである。

海に、フーリエは彼れの恣まゝなる妄想の翅に我れ等に乗せて仙境に運ばんとする。

六

吾人は更らに多くの時を斯くの如き妄誕不條理なる思索の紹介に費すの必要を見ないであらう。彼れ自身も其の主なる功績が彼れの社會組織の提唱であつた事實を承認した。曰く「然しながら、四重の効果、即ち善良なる風俗、富裕・中流及び貧困三階級の調和、鬭争の休止、悪疫、革命及び財政難の終止並びに全世界の一致を生ず可き結合せる産業を組織するの術たる主要事項に對して是れ等の附屬物は何を與ふるか。余を誹謗する者は結合産業理論の領域外に横はる新科學——宇宙組織論、精神發達學、類同論——に關する余の意見に由つて余を攻撃するに於いて彼れ等自身の非を證明するものである。縦令ひ、是れ等の新科學が誤謬であり、馬鹿らしいものであることが眞であると判明したとしても、余が不平等を結合せしめ、而して自然が吾人に與へたるがまゝの欲情、性格及び本能を使用して産業の成果を四倍ならしむるの計畫を提唱せる最初にして又、唯一の人であることが毫も確實の度を減するものではない。人々が須らく其の意を注ぐ可き唯一の點は是れであつて、單に放送せられたに過ぎない科學ではない」と。

然らばフーリエの描いた將來の社會組織は如何なるものであるか。彼れの社會哲學の基礎的原理は彼れが引力の法則と呼ぶ所のものであつて、彼れは是れを以つて全宇宙を通じて作用するものと考へた。社會に於いては其の自然的結果は組合であつて、それは現在に於いては人爲的な不自然な障礙によつて妨害せられてゐる。之れを除去すれば、社會的調和を齎し、又富の生産並びに人間の幸福及び安寧を著しく増加す可きである。彼れは欲情も性向も孰れも其れ自體に於いては不善に非ずと做すの論點から出發する。是れ等のものをして不善ならしめたものは、是れ等

のものが之れを通じて發達し來つた媒介物である。彼れは要せらるゝ所のものは、人類の十二の主要欲情の自由なる作用の機會であると考へる。

彼れに従へば、十二の欲情は三種に分たれる。第一種は感覺的欲情若しくは引力であつて、視、聽、味、嗅、觸である。是れ等のものは奢侈(Luxe)に導くものである。即ち彼れは「奢侈」によつて五官の欲望満足を意味する。斯くて人間をして其の日々の欲望を満足せしむるが爲めに種々なる方法に於いて行動せしむるものは五個の特殊の欲情若しくは引力である。第二種は人間をして友情の團體、戀愛の團體、父權若しくは家族の團體及び野心若しくは團體的組合等種々なる集團若しくは集合の様式を形成せしむる欲情である。第三種は分配的欲情、若しくは秩序愛である。是れ等のものは集團の間に不和若しくは競争を喚起する陰謀的欲情若しくは黨派的精神 (Ja cabaliste) 人間の裡に在つて覺官及び精神を刺戟する多様、局面の變化、新奇を欲する胡蝶的欲情 (Ja papillone ou Alternante) 及び一致に對する欲望、即ち合成的欲情 (Ja composite) である。是れ等分配的と名附けらるゝ三つのものは無限に貴重ではあるが、全然誤解せられて、單に不善とのみ稱せらる。蓋し、是れ等の三つは社會的調和の大發條たる後述す可き集團の系列、即ち班の組を形成し、指導するの性質を有するのであるが、是れ等の系列は文明的社會秩序に在つては形成せられざるが故に、惟り不秩序のみを生ずるのである。(Théorie de l'Unité Universelle, 2e éd., 1838, I, p. 145.)

陰謀的欲情は戀愛と等しく、優者と劣者とを相互に接近せしめて、身分を混同するの性質を有する欲情である。例へば、一定の候補を選出せんとする選挙の徒黨 (cabale electorale) の如きものが、成功を以つて報いらるゝならば、之れに關與せる者は朋友と爲る。多大の不安あるも、彼れ等は其の密計を行ひつゝある間、共に樂しき時を過

したのである。其の喚び起す情緒は精神の必要物である。(ibid., IV, p. 339)。此の欲情は野心家、廷臣、職業組合、商人、華美なる社會に在つて烈しく燃える。人間の精神は陰謀的欲情に對して不可避の必要を有するものであつて、眞の陰謀の存せざる際には、それは、遊戯に於いて、劇場に於いて、小説に於いて、熱烈に人工的の陰謀を求める。(Le Nouveau Monde, 1829, p. 83-84)。

胡蝶的欲情は週期的變化、對蹠的狀態、場面の變化、苛烈なる出來事、錯覺を喚び起し覺官及び心意の兩者を刺戟するを得る新奇に對する願望を意味する。這般の願望は一時間毎に適度に感ぜられ、二時間毎に強烈に感ぜられる。斯くの如き願望が満されないとしたならば、人は微温的狀態及び倦怠に陥る。(ibid., p. 79-80)。胡蝶的欲情は、物質的領域内に於いては、保健的均衡を生ずる、若し或る者が織物、縫物、書物、若しくは其の身體及び心意の總べての部分に順次に働かすことのない其の他の仕事に、一日十二時間同一の作業に於いて勞作するとしたならば、健康は必然害せられる。斯くの如き場合には事務所の仕事に於けると等しく、活潑なる農業上の勞働に於いてすら危害が存する。一は四肢及び生命に必要な器官を疲勞せしめ、他は諸固體及び諸液體を腐敗せしめる。胡蝶的欲情は、欲情的領域内に在つては、性格の和合、相反するもの、和合をすら生ずる。例へば、甲と乙とは相容れざる氣質の人々であるとする。甲の屢々赴く六十集團の中、其の三分の一、即ち二十に在つては、彼れの利害が乙の其れと一致するも、而も彼れが彼れ自身の嗜好に反するも乙の嗜好の或るものを共受しなければならぬことを看出すことがある。同一の事は甲に關して乙の嗜好にも當て嵌る。斯くて、互に相愛することなくして、彼れ等は相互的尊敬、推重並びに互に保護し合ふことに利益を有する。斯くて、文明國に於いては朋友の間に軋轢を生ぜしむる利害は、組合的國家に於いては敵をすら結合する。それは短少なる期間の産する職務の同位から生れた間接の協同

によつて相容れざる性格を融和する。縦令ひ僅かに三十人より成るにしる、一組が一百の他の組に其の成員を加入せしめ、是れ等のもとと友情及び利害の結束を形成するを得るは這般の期間の短少によるのである。二個の主要目的が得達せらる可きであるとするならば、此の協同の缺く可らざることが明かと爲るであらう。是れ等のものは(一)資本、勞働及び技能に割り當てらるゝ三重の配當の平等なる分割、(二)今日に於いては不和の最大なる泉源である食欲の作用を通じての利害の完全なる一致である。(ibid., p. 89-91)。

合成的欲情はあらゆる活動に於いて覺官及び精神の合成的誘惑若しくは快感、従つて又、惟り二種の快感の混合よりのみ生ずる盲目的熱中を要求する。是れ等の事情は文明社會の勞働と殆んど全く相容れざるものである、文明的勞働は人々が、子供ですら、空氣の流通の悪い建築場の中で管撻せられて一日十五時間も勞作する英國の紡績工場の如き、仕事場の中で最も自慢せられてゐるものに於いてすら、覺官若しくは精神の執れかに對して何等かの誘惑を呈示するどころか、單に二重の苦難たるに過ぎない。合成的欲情は總べての他のものゝ價値を増大するものであつて、十二の欲情中に在つて最も美しいものである。愛は覺官及び精神の魅力を結合して合成的愛と爲ることがなすならば美しいものではない。(Théorie de l'Unité Universelle, III, p. 405)。

あらゆる十二の欲情が結合して調和力(L'Unitisme)と稱せらるゝ總べてを統制する全能なる一個の衝動を成すのであつて、それは個人の幸福をして今日に於いては甚しく嫌はしき彼れを圍繞する總べての者及び全人類の幸福と調和せしむる其の性向である。それは文明時代に在つては、第十乃至第十二の欲情に比するも猶ほ更らに知らるゝことの少ないものである。それは全人類が富裕、自由且つ公正なる時に於いてのみ惟り發達せしめらるゝを得る際涯なき博愛、普遍的慈心である。即ち、それを確立するが爲めには覺官に對しては必要なる等級立てられた任務、四個

の感情的集團に對しては完全なる自由、又分配的欲情に對しては分配上の正義が存す可きである。あらゆる欲情は自由の支配を與へられなければならぬ。あらゆる他の道程は自然に反するものである。是れ等のものをして無拘束ならしむるに由つて、それはより高き形態の欲情を生ぜしめ、新たなものを創造し、而して終には完全なる調和及び幸福の状態に導く可きものであつて、斯くて社會的完成は達成せられる。フリーエは十二欲情の結合たるユニテイズムを以つて、萬人が自由競争の制度の下に於ける相互闘争に代へて、彼れ等自ら社會的團體を組織し、相互の利益の爲めに協同するの傾向あることを意味する。

フリーエの類同の觀念に在つては、友情は音階の C、紫、加法、圓、鐵であり、戀愛は音階の E、青、除法、楕圓、錫であり、父系は音階の Sol、黄、減法、拋物線、鉛であり、野心は Si、赤、乘法、雙曲線、銅であり、陰謀的欲情は Re、藍、級數、螺旋線、銀であり、交替的欲情は Fa、緑、比例、Quadrature、白金であり、合成的欲情は La、橙、對數、Logarithmique、金であり、調和力は Ut、白、自乗、擺線、水銀である。

フリーエが到達せらる可き極致と稱して居つた完全なる調和の状態に在つては、あらゆる欲情は其れ／＼一般的幸福に貢獻することゝ爲るのである。彼れの主張は毫も献身的努力に依ることなく、最も無制限なる欲望、最も無拘束なる欲情に訴へるものである。彼れは言ふ、「余の理論は、現在非難せらるゝ欲情を、恰も自然が是れ等のものを吾人に與へたるが儘に、又、如何なる方法に於いても是れ等のものを變更することなく利用するに止まる。斯くの如きは欲情的引力の算法の全神秘、全秘密である。其處には神が是れ等若しくはあれ等の欲情を人類に與へたことが正しかつたか過つて居つたかに關しては何等の論述も存することがない、組合的制度は、是れ等のものを變ずることなく又神が是れ等のものを吾人に與へたるが儘に利用する」と。(Théorie de l'Unité Universelle, IV, p. 157.)

あらゆる時期は「機構の樞軸」(Pivot de mécanique)を形成し而して其の存在するとせざるとが時期の變化を決定する一定の特性を有する。這般の特性は常に戀愛から誘導せられる。第四期即ち未開時代に於いては、それは婦人の絶對的隷屬であり、第五期即ち文明時代に於いては、それは排他的結婚及び法律の範圍内に於ける妻の自由であり、第六期即ち保證時代に於いては、それは婦人に特權を保證する戀愛的團體(La corporation amoureuse)である。未開の人民が排他的結婚を採用したならば、彼れ等は短時間この變革のみによつて文明と爲り、吾人が婦人の蟄居及び賣買を採用したならば、吾人は唯だ此の二つの變革のみによつて未開と爲り、而して吾人が戀愛的保證を採用したならば、吾人は唯だ是れのみによつて文明より退出して、第六期に入ることゝ爲る可きである。(Théorie des Quatre Mouvements et des Destinées Générales, 1808, p. 124.) 原則として、社會的進歩と時代の變化とは自由に向つての婦人の前進に依つて成し遂げられ、又社會的秩序の頹廢は婦人の自由の減少に依つて生ぜしめられる。他の事件も是れ等の政治的推移に影響するが、而も如何なる原因と雖も、婦人の地位に於ける變化の如く迅速に社會的進歩若しくは衰微を生ずるものは存することがない。一言以つて之れを蔽へば、婦人に對する特權の擴張は總べての社會進歩の一般原理である。(Ibid., p. 180.) 「マリア・テレシヤ(Marie-Thérèse)の如き女丈夫からニノン(Nihon)やセヴィニエ(Sévigné)のやうな更らに温和なる色合の其れに至る其の翹を延ばすに成功した婦人たちを指摘するによつて、余は自由の状態に於ける婦人が腕力の附屬物に非ざる心身の總べての働きに於いて男子を凌駕す可しと稱して誤りなきを得るものである」。(Ibid., p. 204-205.)

七

フーリエは、常習的に自然の諸法則を等閑に付せるの故を以つて精神及び倫理哲學者を非難し、人類を幸福ならしむるの目的を以つて是れ等諸法則の眞の認識に人類を呼び戻さんことを企圖する。差し控ふることなく汝の性向に従へ、然らば汝は必然此の世に於ける使命を完うす可きである。汝の自然的本能は汝が運命附けられた仕事に向つて汝を吸引す可く、而して汝の諸感情は汝の特殊の状態に於いて最も望ましい對象の追求に在つて汝を指導す可きである。斯くて性癖の多様は追求する業務の多様を喚起す可く、而して其の一般的結果は宇宙を通じての調和的行爲と完全なる満足たる可きである。完全なる調和の状態に在つては、あらゆる欲情は一般的幸福、最も樂むこと困難なる者が百倍の満足を得せしめらる可きまでに完全なる繁榮に對して其の負擔部分を貢獻す可きである。吾人は何故に吾人の自然的傾向を抑壓しなければならぬのであるか。それは單に苦痛を生ずるのみであつて、斯くて又、不正でなければならぬ。他方に於いて、快感及び満足を生ずる所のもの正しくなければならぬ。一切諸物に於いて豫め設けられた調和が存するが故に、神によつて設定せらるゝのであるから總べて皆善なる吾人の自然的本能を抑制するに於いて、吾人は單に自然の計畫を損壞し吾人自身の幸福を損傷するのみである。男女は其の性向によつて類別せらる可きである。彼れは仕事をして、我が悲惨なる文明状態に於いて存するが如き純乎たる苦役より轉じて、愉快にして興味あるものに變ぜしめんとする。彼れは之れに到達するの動力を義務の精神若しくは自利の觀念にすら求むることなく、只管之れを欲情に覺める。文明の名によつて呼ばるゝ現存事物の秩序が眞に斯くも悲惨であり混亂してゐるのは、虚偽の道德の原理に浸潤せられて立法者等が人間の欲情の發動の機會を阻止するが爲めに彼れ等の腦漿を絞り、斯くて又、彼れ等をして其の眞の目的から轉向せしめたが爲めである。吾人は之れに反して、人間の諸欲情が、總べて例外なく——吾人が過つて惡と名附くるものも他のものと等しく神によつて彼れに與へら

れたものであるが故に、是れ等のものすら——順當に作用し得可き結合を看出さなければならぬ、而して後、吾人は諸欲情の自由の働きが一般的調和を生じつゝあるを見る可きである。換言すれば、今日に至るまで、人間をして其の環境に適合せしむるやうに彼れを變更せんとするの努力が執拗に續けられた、吾人は反對の暗示に従つて、環境をして人間に適合せしむるやうに之れを變更しなければならぬ。人間は神の作品であるに反し、環境は人間の製作物なるが故に、環境は人間よりも遙かに容易に改變せらるゝを得可きである。(Charles Gide, Charles Fourier, Oeuvres Choieses, p. xv-xvi.)

フーリエの理想は人々が最早其の日常の麵麩獲得の必要、利得に對する欲望、若しくは社會的又は宗教的義務の精神から勞作を強制せらるゝことのない社會的國家である。勞働は何が故に遊戯と化せないであらうか、何が故に遊技に際して青年によつて示さるゝと同一程度の熱心が仕事に對しては示されないであらうか。勞働は、怠惰を選むことが全然自由である海狸、蜜蜂、胡蜂、蟻の如き被造物の歡喜を構成する、而も、神は彼れ等に供給するに産業に對する引力を有し而して産業に従事しつゝあるを以つて幸福ならしむる一の社會的機構を以つてした。何が故に彼れは是れ等の動物に等しき恩恵を吾人に與ふることをしなかつたのであらうか。彼れ等の産業状態と吾人の其れとの間には甚だしく大なる相違が存する。露西亞人、アルヂェリア人は鞭若しくは棒を恐れて、英國人、佛國人は其の貧家計と寄り添ふて忍び來る飢饉を恐れて勞作する、其の自由が吾人に誇示せられた希臘人及び羅馬人は今日の植民地に於ける黒人と等しく奴隸として、又刑罰を恐れて勞作した。(Théorie de l'Unité Universelle, II, p. 249.)

フーリエは、總べての人が其の仕事によつて生存の最少限を取得す可きことが礎かであるならば、勞働の享樂化

は可能なる可きものであると考へる。最初の権利は生命を支持するの権利、人が空腹なるの時に食ふの権利である。イエスは或る者が空腹なるの時、必要なるものを、其の看出さるゝ處に於いて取得するの権利を神聖ならしめた。而して這般の権利は、人民に對して生計の最少限を保證するの義務を社會體の上に課する。文明は人民より其の最初の自然權、狩獵、漁撈、採集、牧養の四至要權を奪ふが故に、そは之れに對して賠償の責任を負ふものである。斯くの如き義務が承認せられざる間は、相互に協定せる社會契約は存することがない。唯だ存するものは、生活の必要物を有することなく、而して是れが爲めに第五の權利を回復し、有する者を劫掠するが爲めに俱樂部若しくは内部的聯盟を形成するの傾向ある多數者に對する壓迫の聯盟有する少數者の聯盟のみである。(La Fausse Industrie, 1835-6, p. 391.)

最もよく自己に適する仕事の種類を選択するの自由が各人に與へられ、而して又、労働が想像を刺戟するに於いて缺くことのない多様な性質に分岐せしめられ、歡喜と美感とに包まれて遂行せらるゝとしたならば、労働は其の強制的の性質を失つて、單に一定の能力を行使するの機會に過ぎざるものと看做さる可きであらう。斯くの如き結果に到達するが爲めには、彼れは勞作者を組及び班に分つて其の缺點を利用する。彼れ等の瑕疵と雖も、調和的に排列せられた場合には有用なる刺戟と爲るのである。各個人は自己の選擇に従つて是れ等の團體に加入することを得可きものであつて、又、一の團體から他に移ることが自由である。

彼れは同様に家族の觀念を擴張する。嚴密に其の欲情及び引力主權の學說に基いて、彼れは徹底せる自由戀愛主義を主張する。彼れに取つては、ファランヂは組織の單位として一方に於いては家族に代り、他方に於いては國家に代るのである。彼れは是れ等の兩者に對して甚小なる役割を當てる。洵に、結婚の繼は全然任意的のものである。

將來の婦人は男子と等しくファランヂの活動に参加するに因つて經濟的支持を確保せられ、解放せられて、社會に於ける高き地位を割當てらるゝのである。彼れ等は永續的結婚を選ぶも、亂交を選ぶも自由に委せられる。斯くて、一人の婦人は、種々なる名稱を以つて呼ばれ、又、種々なる權利を有するも而も總べては嗜好又は移り氣によつて變り易き數人の夫——配偶者、其の子供の父、及び單なる所有者の外に愛人を有することを許さる可きである。男子も亦、是れ等の事項に於いては峻嚴なる生活に拘束せらるゝことがない。フリーエに従へば、斯くの如き愛の自由は我が文明の害惡と偽善とを終熄せしむるものである。調和の狀態に在つては、吾人に取つて不徳なるものは徳と爲り、而して徳は不徳と化する。イーリ教授(Richard T. Ely)曰く、「フリーエの觀念があらゆる點に於いて更らに基督教的道徳の教旨と一致して居つたならば、彼れは其の傳道に於いて更らに成功して居つたであらう」と。(Ely, French and German Socialism in Modern Times, 1883, p. 100.)

八

フリーエ思へらく、必要とせらるゝものは、前述せるが如き十二の主要欲情の自由の働きに對する機會であると。是れ等のものゝ作用の結果は「調和力」たる可きである。調和力をして十分に効果を擧げしむるが爲めには、先づ現存の人爲的なる社會的環境を排斥し、廢止しなければならぬ。環境は之れに資するものでなければならぬ。是に於いて乎、フリーエは斯くの如き理想的環境を準備し、之れをファランヂ(phalange)と稱する。彼れは之れを十六の部族(tribu)若しくは年齢に分ち、其の各々は略々男女一百人を包含する。第一の部族は生誕から四歳に至る迄の幼年、第二は四歳から七歳に至る少年、最後は七十歳以上から死に至る迄の頽齡の其れである。各部族は男女の二隊(chœur)を包有し、是れ等十六部族、若しくは三十二隊は一團(vortex)を形成する。是れ即ちフリーエが

フアランヂと名附くる社會的產業的集團である。調和は惟り此のフアランヂなる彼れの共同團體に於いてのみ得達せられる。フアランヂに在つては、自由に發動し得る欲情は調和的に結合し、社會の利益を招來す可きである。是れ等の團體はあらゆる有用なる結合を行ふに足るだけの大きさを有するものであるが、警官其の他の無用なる階級を必要とし、若しくは一般の協同を妨ぐるまでに大なる可きではない。一フアランヂの適當なる人數も亦、人間の十二欲情に依存するものである。フーリエは數學的計算に據つて、是れ等十二の欲情が異なる個人に於いて八百二十の相異なる態様に於いて結合せられ得ることを看出す。而してあらゆる可能なる結合は總べてのフアランヂの勞作者の間に悉く表示せらる可きものである。然らずんば調和に於いて缺くる所ある可きである。男女二人は生殖を行ひ、種屬を永續せしむるに十分である、然しながら、永久、完全且つ満足なる態様に於いて食衣住を供し、教育を施し、而して其の成員の總べてを支配するに足るの力を獨立に結合して、完全なる社會的及び產業的單位を形成するが爲めには、一千人若しくは其れ以上が必要である。フーリエは四百の員數を以つて、可能なるも而も望ましからぬ最少限と認め、一フアランヂに在つては其の成員が一千五百乃至一千六百以下であつてはならぬものと看做し、一千八百乃至二千を以つて適當なる員數と思惟してゐる。然しながら、斯くの如き員數と雖も、一纏めにして亂雑に投入せらるゝを得ざるものであつて、彼れ等は巧みに、同一の趣味を有する七人乃至九人の調和的なる個人の組(séries)を組成せしめらる可きである。次いで、相關聯せる趣味及び欲求を有しつゝある組は結合して各々二十四乃至三十二の班(séries)を成し、是れ等の班は更らに結合して六十乃至八十の班の組を成し、是れ等のものは又、結合してフアランヂを成すのである。「二十種の薔薇を栽培しつゝある二十班は屬に關しては薔薇作りの組(june série de rosistes)を形成し、而して種に關しては白薔薇作り、黄薔薇作り、青薔薇作りの其れを形成する」。

(Théorie de l'Unité Universelle, I. p. 142.)

フアランヂは其の中心として、形勝の地位を下して、フアランステール(Palaisière)と稱する壯麗なる大宮殿的建築を有するものである。此處に最高より最低に至る各層の人員は居住する。フアランステールの中央部は平和的用途に充當せられ、食堂、會計室、評議室、圖書室、勉強室等を有す可きである。禮拜所其の他も亦、此の中央部に置かる可きである。其の翼の一は、大工の仕事場、鍛冶工場、總べての鐵槌工場の如きあらゆる喧噪なる仕事場を結合す可く、他の翼は隊商宿(caravansérail)並びに其の舞踏室を有す可きである。(Ibid., III. p. 447, 445.)。長き廊下と有蓋の歩道とは老人及び虚弱者の爲めの運動場に供せられる。ギャラリーやミランダは總べての仕事場と容易に聯絡を保つが爲めに、夏は風通しよく、冬は暖められた全建築を繞つて通ずる。是れ等のものは又、藝術品を陳列し、産業的進歩の成果を縦覽せしむるが爲めに使用せられる。此の一廓の眞中には高塔聳えて、中央有司の命令は此處より發せられ、そは又、時計臺、電信局及び天文臺として使用せられる。劇場及び取引所も亦、同一の區域内に存する。(フアランステールの平面圖は彼れの著『新世界』の一四六頁に載せられてゐる。尙ほ其の立體圖は A. Bebel, Charles Fourier, sein Leben und seine Theorien, 3 Aufl., 1907. 及び Charles Fourier, Der soziale Reformplan, Textübertragung und Einleitung von H. Thurow (Pioniere und Theoretiker des Genossenschaftswesens, Band III.), 1925. に掲げられてゐる)。

フアランステールの内部に於いては、恰も初期の僧院の其れを想はせるやうな一定の規律の下に、共同の生活が行はれる。此の建物を繞つて、同宿者の所要に備ふ可き納屋、外屋及び農場建築物を有する四百エクタールの地域が存す可きである。各種の工業的勞働、各種の工場及び機械生産は絶対必要の限度に縮少せられて、フアランステ

ールの住民は宛も墮落以前のアダムの如く、又、其の罹災後のカンディドの如くに、殆んど全く其の園圃の注意のみに従事する。ファランヂは自給自足の小世界である。其の消費するあらゆる物を生産し、而して出來得る限り、其の生産せるあらゆる物を消費する小宇宙である。共同消費より生ずる經濟は、現存社會に於いて見るが如き分散せる家計に在つては未知のものたる娛樂品と奢侈品とを與へる。ファランヂは過不足ある場合には、往々他のファランヂと交易の手段を取る。ファランステールより其の所有地の境界に至る約半ばの距離に、四つの「別荘」(chateaux)が相異れる方向に建設せられて、農業に従事する人々の用に供せられる。此處に彼れ等は朝飯及び其の他の飲食物を取ることが出来る。田園労働をして引力あるものたらしむるが爲めに、種々なる種類の耕作が相並んで行はれ、花卉及び果樹は穀圃及び牧場若しくは森林の間に入り交つて點在し、其の位置は全く利潤と等しく藝術的效果を目的として決定せらる可きである。其の労働は其れ自體祝宴の性質を有するものである。輝かしく彩られた天幕は日光及び雨を避くるが爲めに使用せられる。其の産業に於ける手柄を表示しつゝある其の組の紋章を以つて飾られた旗や旗が、勞作しつゝある部隊を標示する。風流な涼亭が適宜の場所に建設せられて、結構な捏粉菓子や泡立つ酒が支給せられる。勞働者等は音樂の旋律と若い合唱隊の甘美な歌に連れて田圃に赴き、又、田圃より歸る。

個人は消滅して、團體が之れに代る。此の驚嘆す可き組織は、其の完全に由つて一切のものを豫見し、一切の缺乏に備ふるが故に、繁榮は貧困に代り、爽快は一切の戒心と煩勞、フリーエによつて不徳と罪惡と解釋せらるゝ善と徳とに代る。ファランステールに於いて行はるゝ一切のものは生活をして自由にして且つ引力あるものたらしめ、其の成員をして財産及び能力の相違に拘らず、互に一家族の成員と看做さしめて、不快なる階級的差別を撤廢せしめる。

める。

九

フリーエは單に佛蘭西の社會を其の原理に従つて改塑するを以つて満足することなく、彼れの體系が全世界の上に擴張せらる可き時期を待望するものである。古代マケドニア軍の方陣、即ちファランクス(Phalanx)が逐次各國民を征服して、アレグザンドロス帝國を擴張したが如く、産業軍のファランヂも、假借する所なく勇往邁進、其の社會的征服の行進を續ける。

各ファランヂの長は Uharque と稱せられ、三つ若しくは四つのファランヂが結合して Duarque の管理の下に置かれ、更に十二が合して Triarque の支配を受け、斯くて次第に Tetrarques, Pentarques, Exarques, Heptarques, Octarques, Ennarques, Décarques, Onzarques を經て、Donzarque は全大陸を支配し、而して最後に Omiarque は全世界のファランヂの全系統を統治する。各支配者は自己の部門のみに於いて統治する。斯くて一ファランヂの執政部中には、十二欲情の男女の機能及び調和力の四機能に相當する男女三十二人のユナルクが存し、全世界の最高府中には三十二人のオムニアルクが存する。ファランヂの總數は正さに二百九十八萬五千九百八十四と計上せられる。オムニアルク等は我が世界の唯一の支配者であつて、其の首府をコンスタンチノーブルに定め、佛蘭西語は世界共通の言語と爲る。オムニアルクは三人の Augusti 十一人の Caesarina 及び十二打(二百四十四人)の Kalipha によつて助けられる。然しながら、時事を支配し、總務に任ずるの責を帯びしめられたファランステールの執政部は單に意見の府たるアレオパゴス(Areopage)の委員に過ぎざるものである。アレオパゴスは次ぎの四つのものによつて構成せられる。第一は各産業の組若しくは快樂(快樂は又勞働と調和する效用なるが故に)の首

長、第二は師、尊師及び大長老の三部族、第三は其の持株に従つて投票權を有する主要なる株主及び小額の累積せる節儉によつて其の持株を取得せる小株主、第四はフアランヂの男女の歴史である。(Le Nouveau Monde, p. 134.)。此の幸福なる共同團體フアランヂには裁判所も判事も存することがない。吾人の所謂過誤若しくは罪惡なるものは總べて有用なる原動力たるが故に、斯くの如きものに對する必要は存し得ないのである。一切は引力によつて、部族、隊及び組の共同心によつて規制せらるゝが故に、アレオパゴスは如何なる條例をも制定することなく、又實施することもない。(Ibid.)。此の集團に屬する各人は仕事をし行ふ可きではあるが、而も彼れを樂ましむる業務に於いて勞作す可きである。一切の勞働は本來引力あるものであり、快適なるものである。勞働をして苦痛ならしむるものは惟り過度の勞作である。然るに、過度の勞作は此の共同組合に在つては不必要なる可きである。加之、變化に對する欲情も亦、承認せられて、各員は二時間の終りには或る別個の仕事に従事することが出来る。吸引力なき職業を續行する者に取つては、人生は長い苦惱である。仕事に於いても、娛樂に於けると等しく、變化は明かに自然の欲求である。引き続き二時間以上に延長せられたあらゆる享樂は、飽滿、濫費に資し、吾人の能力を鈍らし、而して快樂を枯渴せしめる。四時間の歌劇は遂に觀客を飽かしめ、極上の料理が毎日供へらるゝならば、胃腑は幾許もなく之れを拒むであらう。勞働は快樂に比して這般の變化を要求することの更らに大なるものである。(Theorie de l'Unité Universelle, I. p. 147.)。

人間の壽命は平均百四十四歳に延長せられ、勞働の生産力は著しく増加し、人は十八歳より二十八歳に至る間に、其の餘生を安かに送ることを得せしむるに足るだけのものを生産することが出来る。勞働は必要、有用及び快適の三等に分たれる。是れ等の中、第一のものは最高の報酬を受く可く、あらゆる種類の快適なる勞働は最低の支拂を受ける。五歳の小供と雖も、產出物中に自己の配分を有す可きである。總べての人員は生計の最少限を受理す可きである。各員に對して最少限を給與せる殘餘は勞働に對しては十二分の五、資本に對しては十二分の四、選舉せられて管理の事務を行ふ者の能力に對しては十二分の三と云ふ風に配當せられる。(Unité Universelle, III. p. 517.)。即ちフリーエに従へば、フアランステールは各人が其の欲求するだけ多くの株式を所有する株式會社の原則によつて資本を供給せらる可きものである。各フアランヂは一種の株式會社として形成せられる。利潤は交換によつて消費者に及ぶ可きものであつて、毫も權威的の分配によるものに非ざるが故に、各フアランヂには利潤の分割が存す可きである。資本は此の時代に於いては存置せらる可きものであつて、フアランヂに於ける利潤は配當によつて傳播する。私有財産は全然廢止せらるゝことなくして、單に株式の所有に改造せられる。所有の念は文明社會を感動せしむる最有力なる槓桿である。人は、誇張なく、所有者の勞働の產物が奴隸勞働若しくは賃銀勞働の其れと比較して、二倍と見積ることを得可きである。是に於いて乎、經濟學に於いて須らく研究せらる可き最初の問題は、如何にして總べての賃銀勞働者をして共利的若しくは組合的所有者に化成せしむるかに存する。(Ibid., p. 171.)。調和的社會に於いて、或る貧民が僅かに一株の一部、僅かに十二分の一を有するとしたならば、彼れは全管區の共同所有者である。彼れは「我れ等の地所、我れ等の宮殿、我れ等の館、我れ等の森林、我れ等の仕事場、我れ等の工場」と云ふことが出来る。總べては彼れの財産である。彼れは動産及び不動産の全部に利害を有する。(Ibid., p. 517.)。調和的共同社會に於ける貧民は彼れの財産を拵へる數多の機會を有する。彼れは、全然主人の地位に自己を引き上ぐるの道を認めることの出来ない現代の賃銀勞働者の如くに意氣沮喪せるものではない。彼れは其の子女が學識、才能、美貌、高位者との縁組に由つて高き品位を取得するを見るの希望を有する。彼れは貯蓄銀行が一エキ

づつ收受する其の節約の結果として増加しつゝある小資産を有する。ファランステールは彼れに總べての仕事服及び三季節に對する三重ねの禮制服を供給する。彼れはファランステールの負擔に依つて、よく被服を支給せられ、よく榮養を與へらるゝが故に、毫も金を費すことがない。彼れは其の五度の休養に於いて優れた料理、好みの酒及び愉快なる仲間を看出すが故に、現代の労働者の如く、足繁く居酒屋及び酒場通ひをしようとは夢にも思ふことがない。斯くして、彼れは、其の入費勘定の支拂後、彼れに残れる總べての利潤を節約して株券に投資する。彼れは小所有者である。彼れは財産の精神、種々なる會議に於ける議決權及び總べての選舉に於ける投票權を有する。彼れは富者と組み合ひ、之れと常に親密なる間柄であり、而して之れと等しく爲ることを望むが故に、之れに對して反感を抱くことを得ない。斯くの如き好運を得るの希望なくんば、生命は人間に對する重荷と化する。(Nouveau Monde, p. 366-367.)

十

フリーエは人と爲り温和にして、同情心深く、且つ異常に富贍なる想像力を有して居つた。彼れは實に斬新奇抜にして全然無害なる理想家であつた。彼れの體系中には社會主義的なるもの尠なくして馬鹿げたものが多いと云はれてゐる。洵に、其の思想は茫漠・怪異なる叙述によつて損はれてはゐるが、而も彼れは現存の社會制度に對する鋭利なる批評家であつた。而も、カール・マルロ (Karl Marlo) の所言の如く、彼れの批評家は、其の黄金を發見せずして、渣滓を看出した。若し英國にして彼れのファランヂの組織を導入せんか、其の労働は著しく生産的と爲り、同國は「家禽中の最も貴重なるものにして、又、眞に世界的の鳥」たる牝鶏の卵の販賣によつて六ヶ月内に其の國債を悉く償却するを得可きである、と云ふが如き狂的意見のみが一般に知らるゝに至つた。彼れは、諸遊星の住民

及び太陽の住民 (Solaris) は、地球の住民 (Terriens) に對しては拒まれた素晴らしい能力を賦與せられなければならぬと説き、之れに附言して「余は、斯くの如き優越が、主として吾人の剝奪せられたるものであつて而して次ぎの如き特性を含有する一肢體に歸せらる可きことに氣附いた。即ち其の特性は、墜落する時の防護、有力なる武器、見事なる裝飾物、巨大なる力、無限の巧妙、總べての肉體的運動に於ける協力及び支持が是れである。斯問題の論議に際して、想像力を缺いてゐる操觚者等は、太陽の住民は角、象鼻、爪足及び尾を以つて扮装せられたサン・アントワンの道化芝居の悪魔に類するものであり、而して余は之れに類する人間を我が地球上に創造せんことを望むものであると稱する」と言つてゐる。(Fausse Industrie, II, p. 5.)。而して斯くの如き所言は、更らに怪奇の度を高めて、遂には嚴肅なる經濟學者をして一人ならず、ファランステールの成員は悉く皆、其の末端に眼のある尻尾を有すると云ふが如き荒唐なる物語をなさしむるに至つた。然しながら、愚弄嘲笑の裡に葬り去られんとしたフリーエ主義は幾多の重要な影響を經濟思想界に及ぼし、又、奔放不羈なる空想の産物と看做されて來たもの、幾分は現實世界に實現せられんとするに至つた。彼れの學徒中には一千八百十三年以來其の師に附隨せる彼れの最初の歸依者として、又、Vices de Nos Procédés Industriels, 1824. (再版は Aperçus sur les Procédés Industriels, 1840.) 並びに Nouvelles Transactions Sociales, Religieuses et Politiques de Vitomnius, 1832. の著者たるミハイロン (Just Miron)。一千八百三十二年、ロンブーエー附近に約一千二百エクタールの土地を購入して、之れをファランステール建設の用に供したボーデー・デュラリ (Baudet-Dulary)。Fourier et son Système, 1838. の著者ガモン夫人 (Madame Gatti de Gammond)。ギネーヌに於けるファミリステール (Famistère) の創設者トードン (André Godin)。Paroles de Providence, 1835. の著者ヴィグリュウ夫人 (Madame Clarisse Vigoureux)。

彼れの傳記 Fourier, Sa Vie et sa Théorie, 5e éd., 1872. 〇著者ペリラン (Charles Pellarin) サン・シモン學派から轉じた Etudes sur la Science Sociale, 1831-34. 〇著者シェヴァリエ (Jules le Chevalier) を數へることが出来るが、而も其の最も有爲なるものはヴィクトル・ロマンシエラン (Victor Considérant) である。彼れの著 La Destinées sociale, exposition élémentaire complète de la théorie socialiste, 1833-4. はカール・マルクスに對して其の資本主義制度に對する批評の多くを貸與した。彼れは又 Principes du Socialisme, Manifeste de la démocratie au XIXe siècle, 1847. 等の諸著を公にしてゐる。彼れ及び Les Amours au Phalanstère, 1849; Organisation du Travail d'après la théorie de Charles Fourier, 1849. 等の諸書の著者ヴィクトル・ヘンカン (Victor Hennequin) 並びにジョルジュ・ルナール (Georges Renard) 等は、宇宙の將來に關する其の師の描寫を踏襲することなく、單にフリーエによつて傳へられた社會組織を承認するを以つて満足したのである。

サン・シモン主義が僅かに二個年の間、光輝燦たる流星の如くに世界を眩惑せしめた後に於いて、其の光鏗を失つた時、フリーエ主義は之れに代つて社會運動の持續を得せしめた。フリーエは其の死に先き立つてサン・シモン主義者中から重要な改宗者を贏ち得たのである。フリーエ宗派は一千八百四十八年の第三革命後に於いて衰頽し、同主義の共同團體も亦、多くは凋落したが、而もフリーエ主義は容易に地を拂ふには至らない。フリーエの思想は極めて生々として我が國に残存してゐる。社會問題に關心を有する毎十人の佛蘭西人中の九人は不完全若しくは不條理なるフリーエ主義者である。一千八百九十五年にジョルジュ・ソレルは説いてゐる。

彼れのノートピア的思想は又一千八百四十年代に於いて幾多の米國人を捕へた。アルバート・ブリスベン (Albert Brisbane)・ホーナーズ・グリーリー (Horace Greeley)・ナザニエル・ホーン (Nathaniel Hawthorne)・アール・ダヴルニー・エマーソン (R. W. Emerson) 及びジョン・ラッセル・ローエル (J. Russell Lowell) の如き有名な人物も暫く其の自由と單純生活の希望に引附けられた。一千八百四十年から同五十年に至る間に於いてフリーエ主義の共同團體を建設せんとする三打餘の計畫が行はれたが、就中最も重要なものは四十三年より五十四年に至る The North American Phalanx. 四十四年から四十七年に至る Brook Farm Phalanx. 及び四十四年より五十年に至る The Wisconsin Phalanx. である。自餘のもの平均持續期間は十五ヶ月であつた。亞米利加に於けるフマラントの關する記述は John Humphrey Noyes, History of American Socialism, 1870. 及び Morris Hillquit, History of Socialism in the United States, 1903. 中に於て看出される。